

⑤決算特別委員会現地査察

令和3年度決算特別委員会より



← 国府津駅全景

駅前への迂回路整備→



←国府津駅から鴨宮方面に伸びる市道が整備されました

自転車駐車場と会議室施設が整備されました。↓



和宏の目

国府津駅周辺は、朝夕の通勤・通学時間帯に慢性的な渋滞が発生しており、特に雨天時の夕方には国道1号線まで混雑している状態にありました。「都市構造再編集中支援事業交付金」という国の財源(1/2)を使い、国府津駅前と接続する3本の市道、そして駐輪場が整備されました。私は決算審査委員ではありませんでしたが、当日早くから単身現地へ赴き職員の方々の苦労話などたくさん仕入れてまいりました。

⑥陳情と議場見学会について

総務常任委員会報告(見学会)
建設経済常任委員会陳情審査

この件の経緯は?→新型コロナの影響で小学6年生の社会見学である「国会見学」が中止されていましてことから、この2年ほど小田原市議会の議場見学会をいくつかの小学校が行なっていました。見学先は担任の先生が選ぶため市内小学校全てではありませんが、今年度からロータリークラブの寄付金をもとに本格的に見学会を広げることとなりました。その中で議会見学をした町田小学校の児童から「バスケットゴール設置」の陳情が出されました。希望設置箇所が防災センターの駐車場であったために、採択には至りませんでした。建設経済常任委員会の陳情審査では全ての議員が意見を発言するなど議会の活性化にもつながりました。

寄付金の17万円は全額がバスの借り上げ料にあてられ、下府中小学校、豊川小学校の見学会の経費となります。最も身近な政治参加で児童の政治への関心を高める素晴らしい取り組みです。

鈴木かずひろ Profile

昭和44年4月13日生まれ 小田原市立早川小学校、小田原市立城南中学校、神奈川県立小田原高等学校、平成4年國學院大学法学部法律学科卒業。東急ターンパイク株式会社入社 その後オーストラリア投資銀行のマッコーリーに買収されそのまま勤務。平成20年同社退社。父の後を継ぐ形で就農。

早川ミニバスケットボールクラブ指導者
平成27年4月初当選 現在2期目。

所属委員会 総務常任委員会所属 新病院建設調査特別委員会：委員長
議会運営委員会：委員長 令和2年度：監査役



■ 発行/鈴木かずひろ事務所
〒250-0021 小田原市早川92
E-Mail info@kazuhiko-suzuki.jp
URL:http://www.kazuhiko-suzuki.jp



● 皆さまのご意見をお聞かせください。

TEL/FAX 0465-24-3070

鈴木かずひろ 市政レポート



かながわ自民党地方議員協議会の総会におきまして菅前総理大臣のお話を聞く機会がありました。コロナ前の2019年海外からの観光客は3千万人を超えました。新型コロナ感染拡大のために海外からの観光客の姿を見ることは無くなりました。しかし、いよいよ海外観光客の受け入れが始まります。菅前総理大臣は「観光の受け皿を作ることは地方自治体の責務である。」と述べられました。そんな思いも乗せながら質したのが今回の一般質問です。

一般質問は  の帯 委員会審議は  の帯でご提示いたします

令和4年9月定例会報告

I
N
D
E
X

- ①交付金による経営支援
- ②早川片浦地区の振興について
- ③コロナ禍における高齢者の健康
- ④環境への取り組みについて
- ⑤決算特別委員会現地査察
- ⑥陳情と議場見学会について

小田原市議会議員

鈴木かずひろ

① 交付金による経営支援

建設経済常任委員会審議より

これはなに?

→新型コロナウイルス感染症により経済活動に影響を受けた中小企業者に対する補助金や燃料の高騰など1次産業に関わる従事者に対して「新型コロナウイルス感染症対策対応地方創生臨時交付金」を財源として経営支援を行うものです。

内容は?

- 小規模企業者向け電気料上昇分(前年比)の1/2
- 中小企業向けに信用保証料補助、利子補給、市の融資する貸付金
- 農家への営農継続(肥料・飼料・農薬衛生費・動力光熱費の1割)
- 下中たまねぎ病害拡大防止事業(農薬・ビニールフィルム購入費)
- 公設地方卸売市場(青果市場)の使用量減免1/2
- 公設地方卸売市場(青果と水産)の電気料減額
- 小田原市漁業組合に原油価格高騰の差額に対して補助
- 市内交通事業者(バスタクシー)に保有台数に応じた補助

例えば

→農家が営農継続支援金を受ける場合、昨年の青色申告の申請書を農政課窓口へ提示することで補助を受けることができます。

和宏の目

8月にある地区の農家の皆さんの集まりで様々な意見をいただきました。その中で補助金申請の手続きが煩雑である旨のご意見をいただきました。手続きの簡略化については所管に伝え問題の共有をしました。

他国の物価上昇は驚くほどに急激な状態です。もちろん国内物価の上昇も注視をしなければいけません。

一方、農家の側では梱包材も燃料も肥料代も上昇していますが、農家の収入はいまだ増えておりません。良いものを作っても高く売れない仕組みは大きな問題です。漁業についても同様です。若い人が安心して一次産業に取り組めるような社会を目指します。

② 早川片浦地区の振興について

令和4年9月定例会 一般質問

質問の背景は？

早川・片浦地区は鎌倉殿の13人で注目されていますが、観光資源豊富な地区でありながら高齢化人口減少で課題もあります。今回農政課から「交流促進による早川・片浦地域農業振興構想」が公開されました。



根府川白糸川上流：筆者撮影

遺構の残る根府川城をどのように捉えているか？

→根府川城は天正18年の小田原合戦に際し、小田原北条氏により築かれたと考えられるものであり、土塁と見られる遺構が根府川と米神の境の尾根筋の所々にしていることを確認している。根府川城には不明な点が多いが埋蔵文化財包蔵地として既に周知されており機会を捉えて遺構の存在について紹介に努めていきたいと考えている。

振興構想をもとに交流型農業に取り組む場合、規制の緩和されることはあるのか？

→構想による想定事例を推進する際に、関連施設の整備が必要となる場合、農地法や都市計画法等の規制を考慮した上で、土地の有効活用を図っていくことになる。本構想により規制が緩和されるものではないが、地域全体の調和が取れた一体的な農業振興が図られると考えている。

県道740号（小田原湯河原）の危険箇所、江の浦測候所南の歩道整備はどのようになっているか？

→県道管理者である小田原土木センターに必要性を訴え調整を重ねてきた。現在道路管理者である県が準備を進めていると承知している。本市としても早期整備のために要望を続けてゆきたい。

③ コロナ禍における高齢者の健康

令和4年9月定例会 一般質問

質問の背景は？

久しぶりに会った支援者の方に何気なく触れたとき、あまりの痩せ具合に驚いたことから、3年に及ぶコロナ自粛が高齢者の健康に大きな影響を及ぼしていると危機感を持ちました。（下記に質問と答弁）

令和2年度の介護予防パンフレットの効果は？→外出の機会減少をとらえ自宅で介護予防に取り組めるよう要支援要介護の状態にない高齢者5万人に配布した。介護予防のポイントを的確に示し保健師の地区活動などに積極的に活用し、高齢者からもわかりやすいと好評をいただいている。

高齢者の外出の場、活動の場の状況は？→70歳を迎える高齢者にアンケート調査を実施した。令和2年度は大幅に減少したが令和3年度に回復の傾向が見られる。

介護予防には口腔の健康が大事、口腔の健康への取組みは？→平成30年より歯科医師と歯科衛生士を講師として「お口のスキルアップ教室」を開催し口腔機能について正しい知識を習得し、自立した日常生活を送れるよう支援しているほか様々な機会をとらえ口腔の健康の重要性について啓発をしている。

認知症状のある方への告知は？→認知症状の変化や対応のポイント、認知症の予防事業を含む支援体制をまとめたリーフレット「認知症ケアパスおだわら」を独自に作成。認知症に伴う生活や医療等に関する相談に関してはこのリーフレットを使いながら市の窓口のほか地域包括支援センターでその人の症状に合わせ、個別に支援を行なっている。また認知症サポーターの養成講座を開催し、見守り体制の構築に取り組んでいる。

和宏の目 痩せ具合に驚いたからといって質問はできません。今回外出機会の減少を経済産業省と内閣官房から提供されている地域経済分析システム RESASから状況調査いたしました。神奈川県西部や小田原駅の人流、カード決済状況のビッグデータなどを活用し新型コロナ感染拡大による私達の生活の変化をグラフで示し質問しました。データ分析による政策提言を今後増やしてゆきたいと考えています。

④ 環境への取り組みについて

総務常任委員会 審議事項

報告の特色

地域脱炭素移行・再エネ推進交付金 [採択額は2億円弱]

公用車管理事業について→小田原市は脱炭素に向けた取り組みとして公用車のEV化を掲げており、本年6月に交付決定を受けた地域脱炭素移行・再エネ推進交付金重点対策加速化事業を活用し5台の電気自動車を前倒しで導入する（車両本体1台あたり100万円の交付、令和5年1月に車両導入予定）。休日および夜間はカーシェアリング事業者が運用し利用料の一部は市の収入となる。

重点対策加速化事業費補助金（再生可能エネルギーの利用拡大のため補助金新設）

●太陽光発電設備など補助メニュー新設

家庭用や事業用の太陽光発電設備、家庭用蓄電池の設置費の補助。ソーラーシェアや高効率空調や高効率照明など1/2を上限を設け補助する。予算は事務費を含め1億140万円。国からの補助率10/10。

市役所脱炭素化推進事業（市の施設設備をエネルギー効率の良いものに変えてゆく事業）

●議場等、照明のLED化でエネルギー効率の良いものに変えてゆく

議場や本庁舎の水銀灯をLED化、マロニエのホールLED化、児童プラザの照明LED化、扇町クリーンセンター太陽光発電設備設置、生涯学習センター照明LED化、上下水道庁舎照明LED化、公用車EV化。財源は地域脱炭素移行・再エネ推進交付金重点加速化事業より



市議会議場の天井ハロゲン灯（写真左）と現在導入されているEV(写真右)

和宏の目 ゼロカーボンつまりエネルギーを使う際に二酸化炭素を出さない発電方法。太陽光や水力風力といった再生可能エネルギーと言われるものを今後増やしてゆく必要があります。なぜなら現在、私達の生活は石炭やLNGといった化石燃料を燃やすことで発電し、大量の二酸化炭素を発生させることで成り立っています。小田原市民の稼いだお金は電気やガソリンを買うために毎年300億円以上が市外（海外！？）に流出しています。もし、1%を発電できれば3億円、10%発電できれば30億円が市内に循環することになります。私の家はずいぶん10年ほど前まで「薪」でお風呂を沸かす仕組みがありました。私が小学生の時は「薪」だけでお風呂を沸かしておりまして、風呂の支度は私の重要な仕事でした。杉の葉と新聞紙で焚きつけて、太いみかんの剪定枝をまるまる燃やすとちょうどいい湯加減になります。「薪」燃料で冷房をすることはできないので弱点はありますが、釜の灰は畑に戻す小さな循環がそこにありました。小田原市は2050年までにカーボンニュートラルを達成する目標があります。今回の事業のように、国の施策に積極的に手を上げてひとつひとつを達成しながら環境に負荷の少ないまちづくりを目指します。